

教育センターだより

第413号
 平成30年9月18日発行
 福岡市教育センター
 (授業力向上支援センター)
 TEL 822-2875
 発行者 中村 加代子
 編集者 小森 新吾



教育センター講演会

小中高大社会を貫く学び ~一人一人が未来の創り手となるために~
 アクティブ・ラーナー 和田 美千代 氏 (城南高等学校長)の熱き思い

本年度の教育センター講演会(8月7日)は、福岡県立城南高等学校 校長 和田 美千代 氏を講師にお迎えし、小学校から中学校、中学校から高等学校、高等学校から大学といった「接続」という視点で、社会まで貫いていくアクティブ・ラーニングについてのお話をいただきました。あっという間の100分間、なぜ、授業をアクティブ・ラーニングにしなければならないのか、を参加者は自分なりに考えることができました。予測困難な時代だからこそ、未来へ向かって学び続けるアクティブ・ラーナーの育成が求められること、そして、そのためには教師がアクティブ・ラーナーとして授業改善をしていかねばならないという示唆が、一番の学びとなりました。32・33年度からの新学習指導要領全面実施を前にした、この時期にぴったりの、素晴らしい御講演でした。



夏の成果を

教育センター所長 中村 加代子

夏休みも終わり、隣接する百道小学校の校庭にも、朝、中休み、昼休みに元気に遊ぶ子どもたちの声が戻ってきました。1学期末に比べて帽子をかぶって遊んでいる子どもの姿が増えたような気がします。

今年の夏は、本当に記録的な暑さでした。全国各地の最高気温更新のニュースが流れ、福岡も例外ではありませんでした。そんな中、各学校では、夏休みでなければできない充実した校内研修が実施されたことと思います。

教育センターでもたくさんの研修講座を開催し、多くの先生方に、経験年数や職能、課題など、それぞれのニーズに応じた研修を受講していただきました。講座の中には受講者数や会場の関係で、最適な受講環境ではなかった講座もあったかもしれませんが、それでも、受講後の感想には、「大変勉強になりました。もっと勉強しなければならないと感じました。」「2学期からの授業に是非生かしたいと思います。」など、向上心や向学心、子どもへの教育的愛情にあふれた言葉がたくさんありました。

未来を生きる子どもたちに生きる力をつけるのは、日々子どもたちと直接向き合う私たち教員の使命です。そのためにも、教員は、子どもへの愛情にあふれ、豊かな人間性と確かな指導力を身に付け、常に学び続ける存在でなければなりません。

今年の暑かった夏に蓄えた力を、子どもたちのために、是非2学期からの実践に生かしていただきたいと思います。



全市人権教育研修

担当 江口

7月31日(火)、8月22日(水)に市内の7区の市民センターホールにて、全市人権教育研修を実施しました。本市の7,000人を超える先生方が「人権教育の推進」(平成28年施行の人権に関する法律、学校における人権に関わる事象、人権読本『ぬくもり』第3版)と「差別の現実に学ぶ」当事者の講話を通して、特定職業従事者として、人権教育における知的理解を深め、人権感覚を高めました。



1年次研修

担当 久保田

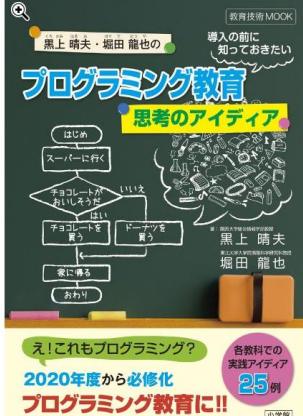
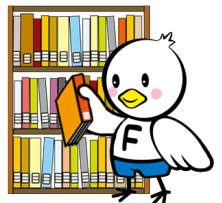
今年度は、過去最高の700名を超える1年次の先生方が採用となりました。1校当たりの採用者数も増えたため、同じ内容の校外研修をA日程・B日程の2回に分けて実施しています。各校種・職種に共通の研修と各校種・職種ごとに特化した研修とがあり、1年次の先生方は皆毎回熱心に研修に臨まれています。既に、普通救命講習や清掃活動などの体験的な研修も実施しましたが、研修後のアンケートには新たに学んだ内容や気付きなどが毎回びっしり書かれています。今後も、充実した研修の実施に努めて参ります。



活動あって学びあり! 学校社会科アクティブ・ラーニング 21の授業プラン
 「資料」「体験」「調査」「表現」4つの視点で展開する社会科アクティブ・ラーニング! 習得・活用・探究の学習プロセスを重視し、読み取り・解釈・説明・論述の言語力のレベルも踏まえた具体的な授業プランを、豊富に提案しました。社会科 AL 授業づくり に必携の1冊。



授業のユニバーサルデザイン vol.9
 第一特集では、学習指導要領改訂の指針である「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けたアクティブ・ラーニング、そして授業のユニバーサルデザインとの関係性や課題について焦点をあてた。第二特集では、授業のユニバーサルデザインを支える学級経営に着目。論考ほか、「参加」レベルを支えるフリートークの実践について、豊富な写真とともに授業風景を収録。



プログラミング教育導入の前に知っておきたい思考のアイデア
 次期学習指導要領で注目される、小学校での2020年からのプログラミング教育の導入。その第一人者である黒上晴夫、堀田龍也両氏により、現場での各教科で考えられるプログラミング的思考のアイデアを25事例で紹介する画期的な一冊。



「迷惑施設」としての学校 近隣トラブル解決の処方箋
 ある日突然やってくる、苦情、クレーム、無理難題。校長、園長、教職員は、近隣トラブル円満に解決したい。でも、どうすればいいかわからない。「学校イチャモン研究」の第一人者が日本各地で起こっているトラブルを元に解決方を提案。